



農作業一口メモ

(平成29年11・12月号)

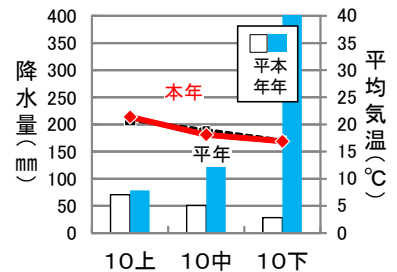
鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

気象 <四国地方 3ヵ月予報(11月~1月)>

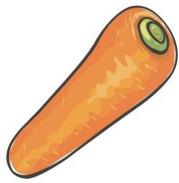
高気圧に覆われやすく、向こう1か月の降水量は平年並みか少ない見込みです。

寒気の影響をやや受けやすいですが、大気全体の温度が高いため、向こう3か月の気温はほぼ平年並みの見込みです。

(10月25日発表高松地方気象台)



にんじん



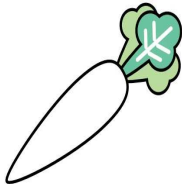
<11月の管理について>

- 播種前に土を十分に耕耘し、保水性と通気性を高めておきましょう(土壌水分過多は厳禁)。
- しみ腐れ病の発生が多い圃場では、は種前にユニフォーム粒剤を散布しましょう。
- 近年、11月でもトンネル内がかなり高温になっています。換気は気象変化と生育に気を配りながら行いましょう。
- 適期換気に努めましょう。被覆内気温は、土寄せ時期の本葉5~6枚まではやや高温の30℃を目安とし、初期の生育を促しましょう。

<12月の管理について>

- 生育初期の乾燥に注意しましょう。
- 本葉3~4枚頃までに7~9cm間隔に間引きましょう。
- 本葉5~6枚頃に芯葉が埋まらない程度に充分土寄せし、青首を防ぎましょう。菌核病の発生がひどい圃場では、この時期から10~20日後に追加防除することで、菌核病の発生を抑制しましょう。

だいこん



- 11月上旬から収穫が始まります。

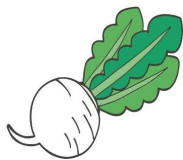
収穫適期を逃さずに品質の良いだいこんの出荷に努めてください。

- この時期は1日の気温の差が大きいため、病気が出やすくなります。雨が多い時は、予防のための早めの農薬散布が重要となります。また、肥料切れを起こしやすいので追肥の時期や量に気をつけてください。逆に雨が少ない時は、かん水が必要となります。アブラムシ等の発生に注意してください。

れんこん<土壌分析に基づく施肥設計>

- 収穫の終わったほ場から土壌分析を行い、土壌中に肥料がどのくらい残っているかを把握し、効率的な施肥に努めましょう。
- 石灰の施用量が多い傾向にありますので、土壌の石灰含量とpHに注意しましょう。

かぶ



<病害虫防除等について>

- 露地栽培では、白さび病や白斑病の発生に注意しましょう。肥効が落ちた時期に発生しやすいので、葉色が薄い場合などは、追肥を行い、肥効を切らさないようにしましょう。
- 害虫は、アブラムシ類、ヨトウムシ類の発生に注意しましょう。アブラムシ類はモザイク病を媒介するので、薬剤による初期防除を徹底しましょう。ヨトウムシ類も、老齢幼虫になると被害が大きくなるので、若齢幼虫時の防除を行いましょ。

<収穫の注意点について>

- 小かぶは6cm程度、中かぶは12cm程度で順次収穫しましょう。
- 12月に入ると、早朝に葉が凍ることがあります。収穫は、茎葉の氷が溶ける朝9時以降夕方に行い、茎葉に傷がつかないように注意しましょう。

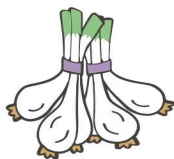
たまねぎ



<11月の管理について>

- 葉数3~4枚で、太さ5mm、高さ20~25cm程度の伸び伸びした良い苗を植えて下さい。大苗ではとう立ちが多くなり、小苗では寒害を受けやすく収量もあがりません。
- 葉の分岐点が土の中に埋まらないように2~3cm程度の深さに浅植えし、定植後は充分にかん水します。
- 活着したら、初期の雑草発生を抑えるために土壌処理型除草剤を散布しましょう。土壌が乾燥していると効果が劣るので、土壌が適度に湿った状態で散布して下さい。必ず雑草発生前に散布し、散布後は処理層を壊さないようにするため、土を動かさないようにして下さい。
- 定植した株の感染を防ぎ、翌年春のべと病発生を抑制するために、活着後から定期的に薬剤を散布して下さい。

らっきょう



<11月の管理について>

- ネダニ、アザミウマの防除時期です。早めの防除に努めましょう。
- ホモノハダニが発生している圃場では、ネダニの防除とあわせてランネットDFを散布しましょう。

レタス



- べと病は、低温(10~15℃)多湿条件下で蔓延の危険があります。排水管理に努めるとともに、発生を認めたら直ちに農薬防除を行いましょ。
- 寒害防止と結球促進のため、平均気温10℃を目安にトンネル被覆を行いましょ。週間天気予報などを参考に作業の準備を早めに行っておきましょ。
- トンネル内は日中25℃以上にならないように温度管理しましょ。

農薬を使用する場合には、ラベルに記載されている内容を確認の上、農薬が周辺圃場等にかからないように注意しながら散布して下さい。散布後には、使用した器具の洗浄を徹底し、薬液を十分に洗い流して下さい。

ブロッコリー



<11月の管理について>

- 初期生育促進のため、1回目の追肥を活着直後の定植後10～14日頃に行います。
一回の追肥の目安は、10a当たり窒素成分で3.5～4.5kgです。
- 追肥時に雑草の発生防止と株の倒伏防止のため、土寄せを行いましょ。
- コナガ、ヨトウムシ類は大量発生すると防除が困難になるため、早めの防除を心がけましょ。

<12月の管理について>

- 追肥は2～4回に分けて施し、花蕾が500円玉くらいの時期の追肥を最後とします。
- 病害虫予防として殺菌・殺虫剤の散布を行いましょ。
特に外葉にべと病の病斑が見られる場合は、組織内べと病の発生に繋がるので必ず防除しましょ。

なのはな



<管理について>

- 2週間おきに追肥を与えましょ。硫酸、硝磷安加里（S604）またはNK化成で15～20kg/10aが目安です。
生育を見て加減してください。
- 土の乾燥が続くような場合は灌水しましょ。
- 昼間にしおれる株は根こぶ病の可能性がありましょ。
根にこぶがついてないか確かめましょ。
- 収穫が始まれば農薬による防除が難しくなりましょ。
アブラムシ、ヨトウムシ類は早めの防除を心がけましょ。

■■平成29年度農業簿記セミナー受講生募集■■

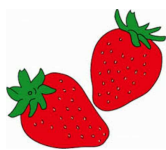
経営改善・経営発展を行うためには、経営状況がどのようになっているのかを知ることが必要不可欠です。そこでパソコンを使って複式簿記記帳を実践することで経営成績を数字で把握し、今後の経営改善に繋げるためのセミナーを開催します。この機会にご参加下さい。

1 研修内容・日時（全日程 午後1時30分から午後4時）

日 時	講座内容	その他
11月10日(金曜日) 12月 8日(金曜日)	○パソコン簿記の実践 ご自身で日常取引の簿記入力をしていただきます。	*実際にご自身の簿記記帳をしていただきますので、ノートパソコン・取引伝票や通帳をご持参下さい。
1月12日(金曜日)	○決算処理のためのポイント等について講演があります。	*青色申告や決算に関する相談を受け付けます。
1月23日(火曜日) 24日(水曜日) 25日(木曜日) 2月 9日(金曜日) 2月14日(水曜日) 2月15日(木曜日) 2月16日(金曜日) 3月 9日(金曜日)	○決算処理の実践 1年間の入力を終え、決算書を作成します。 ・決算前の入力確認を行います。 ・簿記ソフトによる決算操作をします。	*使用するパソコン簿記ソフトは「ソリマチ農業簿記」です。 *すでに実践されている方でも経験が浅い人でも参加できます。

2 場 所 鳴門藍住農業支援センター 2階研修室

いちご <「さちのか」の管理>



- 摘果作業は、草勢に応じ、頂果を10果以下、頂果房両側の腋芽は2芽を残して、それ以外の腋芽は早めに除去しましょう。
- 最低気温が10℃を下回った頃からハウスの開閉を開始するとともに、ビニル被覆や加温の準備をしておきましょう。
- 電照は11月15～25日頃に開始し、厳寒期の草丈25cmを目標に管理します。
草勢を見ながら電照の条件、温度・肥料・水分の管理を行いましょう。
- 草勢が旺盛になりすぎると、地下部とのバランスが崩れ、株疲れの原因となります。
また、生育期間中は、土壌水分の変化をできるだけ少なくし、冬場のかん水は午前中の収穫作業後に行い、夕方までに地温を上昇させるよう努めましょう。
- 収穫時は、果実の温度をできるだけ低い状態で維持し、品質保持に努めましょう。

なし <越冬病害虫の防除について>



- 落葉には黒点病等が越冬しており、放置すると翌年の感染源となります。
落葉は埋没するか園外に持ち出しましょう。
- カイガラムシ類の多かった園では、マシン油乳剤を散布しましょう。
マシン乳剤はかけムラのないよう、満遍なく散布する事が重要です。

落葉果樹 <休眠期の病害虫対策について>



- 礼肥として、早生・中生は11月上旬、晩生は上中旬に施肥しましょう。
- 落葉にはうどんこ病・落葉病、病果には炭そ病が越冬しています。
これを放置すると翌年の感染源となります。
埋没するか園外に持ち出しましょう。
- カイガラムシ類、ハダニ類等の越冬害虫対策として、マシン乳剤が有効です。
特に、近年はカイガラムシ類の発生が多くみられます。
カイガラムシ類多発園では、できるだけマシン乳剤を散布するようにしましょう。
- 落葉、病果は翌年の病害の発生源となりますので、園内に放置せず、土中に埋没する、持ち出す等できる限り処分しましょう。



Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

検索

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515